

きらりNet

病弱教育サポートセンターきらり☆の取組

県内の病弱教育を推進するための中核的な拠点として「病弱教育サポートセンターきらり☆（以下、サポセン）」が本校に設置され7年目になります。サポセンでは、全県域にいる病弱教育対象幼児児童生徒への相談支援・教育活動支援などを行っています。その中のほんの一部をご紹介します。

病弱教育対象
幼児児童生徒への
**相談支援・
教育活動支援**

病弱・身体虚弱
特別支援学級との
**ネットワーク
づくり**

関係機関との
**連携・
理解啓発活動**

**研修・
情報発信**

入院児童生徒への
**相談支援・
学習支援**

相談支援

教員、本人・保護者、関係機関等から電話で相談を受け付けています。学校生活での困り事や就学、進路、入院中の支援等様々な内容があります。依頼を受けて学校を訪問し、授業参観や担任との相談、保護者面談での情報提供等もしています。



きらり☆サロン（オンライン相談会）

月1回、病弱・身体虚弱特別支援学級の担任とオンラインで、日々の学習や児童生徒への対応、泊を伴う行事、進路指導などについて気軽に意見交流する場です。相談や質問には教育専門監が対応します。



主な連携機関

- ・ 幼保（園）小中学校、高等学校、特別支援学校
- ・ 秋田市内総合病院 ・ 教育委員会
- ・ 秋田県医療的ケア児支援センター「コラソン」

困り事や心配事がある際は
教育専門監（病弱）と
特別支援教育アドバイザーに
お気軽にご相談ください。

病気の子どもの教育支援フォーラム

日時 11月21日（土） 13:00～16:30

場所 秋田大学教育文化学部キャンパス

講演 「病気の子どもの学びのために私たちができること」

講師：昭和医科大学保健医療学部 教授 副島賢和 氏

分科会テーマ

- ①病気療養児の『今』と『これから』を支える学校の役割
- ②様々な職・機関のつながりがもたらす豊かな生活の追求
- ③病弱児支援と教師力の高度化

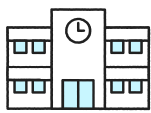


詳細は、こちらの
QRコードからご覧
ください。

入院児童生徒への支援

主治医の許可と在籍校からの依頼を受け、秋田市内の小児科入院病棟のある4つの病院と医療療育センターを訪問し、支援を行っています。右の表は、昨年度の支援実績です。

病院	人数	（小／中／高／特）	回数
A	57	（16／26／4／11）	465
B	9	（6／3／0／0）	46
C	1	（1／0／0／0）	2
D	2	（1／1／0／0）	14
E	1	（1／0／0／0）	15



入院児の気持ちに寄り添った支援



入院中の子どもたちの不安は、入院直後、少し時間が経ったとき、退院の声が聞こえてきたとき、退院時、退院後と時間の経過でどんどん変わっていきます。子どもたちとの会話から気持ちを聞き取り、少しでも不安を小さくできるように保護者や在籍校、関係機関と連携しながら支援しています。

入院期間が長くなり、学習の遅れが心配。でも、体を起こすと目まいや吐き気がするし、どうしたら…。



在籍校



横になりながらも、体調に合わせて参加できるオンライン授業はどうでしょう。

サポセン



病院を訪問して、心理面のサポートをします。主治医の意見を伺いながら、在籍校に情報提供します。

入院中の姿を友達に見られたくないから、オンライン授業は遠慮したい。学習の遅れは、退院後の自宅療養期間に取り戻したい。



在籍校



授業で使用したプリントを渡します。定期テストの範囲、授業の進み具合もお伝えします。

サポセン



入院中は、病院を訪問して学習支援を行います。退院後は病児学習支援ボランティアの学生さんにつながります。

病児学習支援ボランティア



退院後から復学までの自宅療養期間、オンラインで学習支援を行います。希望する教科に合わせて教員志望の大学生が担当します。



病気の影響で、歩行の不安定さや字の書きづらさが残っている。学校に戻ってから、みんなと同じように出来ない。大丈夫かな。



市教委

復学支援会議を開きませんか。秋田きらり支援学校の教育専門監に参加をお願いします。

ぜひ、復学支援会議をしましょう。主治医からの話や他校での事例を紹介します。



サポセン (教育専門監)

復学支援会議では



保護者

本人がやりたいことには挑戦させたいです。疲れやすさがあります。板書を全て取ることは難しいです。教科書などを持って教室を移動することに不安があります。

疲れたときは保健室で休みましょう。板書はタブレットで撮影するのはどうでしょうか。友達にも協力してもらえよう、伝える内容を一緒に考えましょう。



在籍校

教育専門監のつぶやき

入退院を繰り返したり、登校できる時間が限られていたりする場合、学習の遅れや友達との距離感、行事や部活動を諦めなければならない辛さなど、子どもの心は不安でいっぱいです。そんなとき、自分の気持ちを理解しようと心を寄せてくれる先生、普段と変わらずいてくれる友達の存在など、学校ができることはたくさんあります。些細なことでも子どもたちの大きな力になる瞬間をこれまで数多く目にしてきました。支援方法に迷ったときには、お気軽にサポセンにご連絡ください。

(文責：藤井 奈緒子)

(文責：小林 佐知子)



「病気の子ども
理解のために」
国立特別支援教育
総合研究所